

# 水稻の生育状況について⑤

令和6年7月23日

常陸太田地域農業改良普及センター

## 1 気象について(日立市)

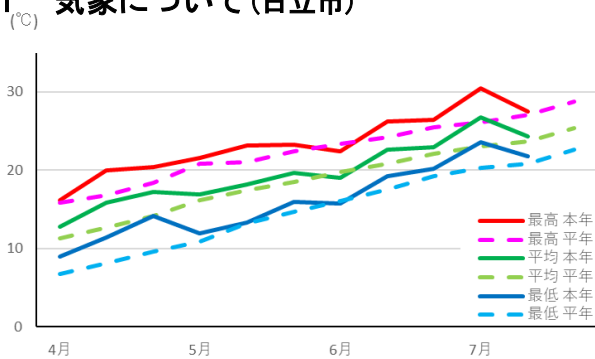


図1 気温の推移

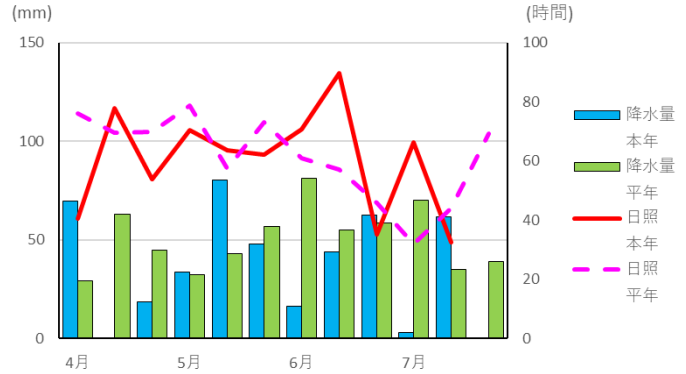


図2 降水量と日照時間の推移

・気温は、6月中旬以降、特に7月上旬は非常に高温で推移しましたが、中旬は雨天・曇天が続き、平年並みで推移しました。降水量は、7月上旬は少雨でしたが、中旬は降雨が多く平年より8割程度降水量が多くなりました。

・関東地方は平年より1日早い7月18日に梅雨明けとなりました。気象庁の予報では、今後しばらくはかなり高い気温で推移する見込みです。

## 2 水稻(コシヒカリ)の生育状況について(7月19日時点)

・定点ほ場調査結果からみると、草丈は常陸太田市で平年並みですが、北茨城市では5%程度高くなっています。茎数は平年より5~15%程度少なく、葉色は概ね平年並みで推移しています。

・6月中旬以降からの高温傾向により幼穂の伸長が早く、常陸太田市では穂ばらみ期になっています。今年の定点ほ場の出穂期は、平年より3~5日以上早まると予測されます。

・出穂後の水管理は間断かんがい(入水後は3~4日程度止水管理し、水が抜けたら1~2日後に入水を繰り返す)を行います。高温が続きますので、田面が乾燥する前に適宜入水しましょう。

・茨城県病害虫防除所からは今年は斑点米カメムシ類の発生量が多いとの予報が出ています。実際、水田の外縁部や畦畔のイネ科雑草で多数のクモヘリカメムシやホソハリカメムシ等が見られています。斑点米カメムシ類の防除適期時期は、出穂期~穂揃い期頃と、乳熟期頃です。高温のため水稻の生育ステージも、斑点米カメムシ類の発生も早くなっています。今年はイネカメムシの加害(防除適期:出穂期頃)により不稔被害も懸念されます。水田を観察し、適期防除に努めましょう。

調査地点 ・栽植密度	移植日	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色 (葉色板)	SPAD	幼穂長 (mm)
北茨城市 関本町関本中 15.6株/m <sup>2</sup>	5月4日	88.7	22.6	353	3.7	30.8	86
	(5月2日)	(84.6)	(23.7)	(412)	(3.5)	(28.2)	(72)
常陸太田市 天神林町 15.9株/m <sup>2</sup>	5月4日 (4月26日)	86.7 (87.7)	25.0 (29.5)	398 (420)	2.9 (3.5)	30.7 (31.7)	160 (144)

注: カッコ内は過去5年間(R1-5)の平均値